

アウトドア派を自任する私は、以前からキャンプやカヌーのほか、川や支笏湖で釣りしながら休日を楽しんでいましたが、最近10年余りは磯釣りに出掛けることが多くなり、積丹半島や噴火湾方面に出掛けています。

今春からは、ここ支笏湖で仕事をするようになったこともあり、釣行の機会が少なくなりましたが、先日、豊浦町の漁港に出掛けてきました。釣果のほどはさておき、帰りに立ち寄った道の駅の売店の一角に、豊浦町で印刷業を営んでいた赤木三兵さん（故人）が創設した「三音文学会」という会が発行した「昔話北海道」という小冊子が目に留まりました。何げなく手に取ってみると、その第2集に「シコッ湖のあめうお」という

民話が載っており、帰宅後、読んでみると、私たちの先達であるアイヌの伝説を基に、著者（堀内

イヌの間に伝えられているという、巨大な魚「あめうお」にまつわる話を語ってくれるというもの

ん、これがアメモスのことなのでしょう。調べてみると、支笏湖にまつわる伝説・民話に

民話「シコッ湖のあめうお」

歴史の一端を知る

は、アイヌ民話集や千歳市史に、大蛇の話や大入道の話、支笏湖に沈んだ盗賊の話など、いろいろなものがあること、またアイヌの民話には1話1話のおしまいに、人々に対する教訓や親から子への教えとなる言葉が入っていることが分かります。

支笏湖に関わるようになってまだ日の浅い私にとって、支笏湖の歴史の一端を知ることができたことは、この日の釣果以上に収穫の多い釣行になりました。

（自然公園財団支笏湖支部所長、木下宏）

興一さん）が登場人物やその言動などを多少書き加えた物語であることが分かりました。

で、支笏湖に住む暴れ者の「あめうお」をアイヌの若者が悪戦苦闘の末退治し、小さく切り刻んで湖に放り込むと、めんこい「あめうお」になったという内容でした。たぶ



「あめうお」のアイヌ民話が表紙になった「昔話北海道」